

新医療の創造で世界を牽引する

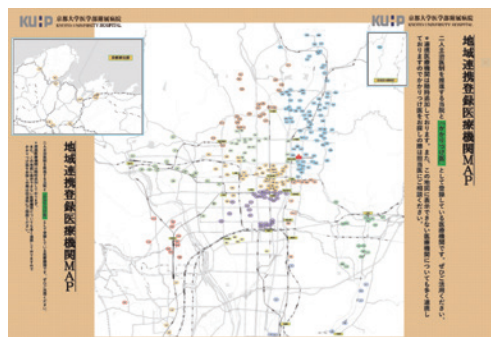
研究と臨床、地域と医療、いまとこれからをつなぎながら

研究成果をいち早く臨床へ、高度先進医療を患者さんの元へ

医学部附属病院の手術件数は年間1万件を超え、国立大学病院としてトップクラスを誇ります。高度な手術も多数行っており、中には2023年11月の生体肺肝同時移植手術の実施報告のように当院が世界で初めて実施した手術もあります。また、未来の医療を創造することも私たちの使命です。2020年に設立した先端医療研究開発機構では、早期臨床試験に特化した組織（Ki-CONNECT）を設置し、iPS細胞などを用いた新たな医薬品、治療方法を、1日でも早く患者さんに届けるために日々研究、開発に取り組んでいます。



地域医療連携の充実



一方で、地域における当院の役割も重要です。当院では、各医療機関が有する医療機能を活用し、高度な医療を地域の患者さんに提供することを目的として、地域のかかりつけ医と当院医師による「連携主治医制」を積極的に推進しています。また、本取組みに賛同いただける医療機関を当院の「地域連携医療機関」として登録し、希望される医療機関には「地域連携医療機関登録証」を発行しています。（2024年4月末現在688機関）

J-CONNECTの創設及び後向き大規模リアルワールドデータ収集(CONNECT-2)の開始

本院は、新医療リアルワールドデータ研究機構株式会社と共同で、医療機関及び製薬企業による新たな研究基盤であるJ-CONNECTを2023年4月に創設いたしました。各医療機関で収集・蓄積された、がん治療における高品質なリアルワールドデータ（以下『RWD』）の運用管理及び活用により、これまで構造化して収集することが困難であった医薬品使用における有効性や安全性に関する情報を含め、その評価を通じ新たなリアルワールドエビデンスの創出につなげていきます。

